

サン・ドニ

写真集2



サン=ドニは、フランス、セーヌ=サン=ドニ県のコミューン（市）

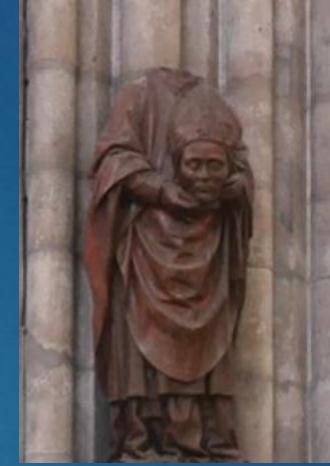
サン・ドニは1世紀頃にローマ帝国によって造られた。

約2000年の歴史があることになります。

サン・ドニ大聖堂があり、歴代の王が眠っていることで有名です。歴代の王が首都に入るときは必ずサン・ドニ通りを勝利パレードで進んだ。

フランスにとってサン・ドニ通りはとても重要な道だったのです。

サン・ドニという地名は、パリでキリスト教を広め最後には首を切られて殉教した聖ドニ（St Denis）にちなんでいる。



自分の首を持った「サン・ドニ」



レオン・ボナ「サン・ドニの殉教」



ストラスブール サンドニ駅（地下）

レピュブリック通りは中近東の街のよう
(アラブ系の人達が沢山住む町サン・ドニ)





マリー・アントワネットを含む 43 人の王、32 人の
王妃、その他の君主の主要メンバーの永眠の地

世界初のゴシック様式の大聖堂



サン・ドニ大聖堂



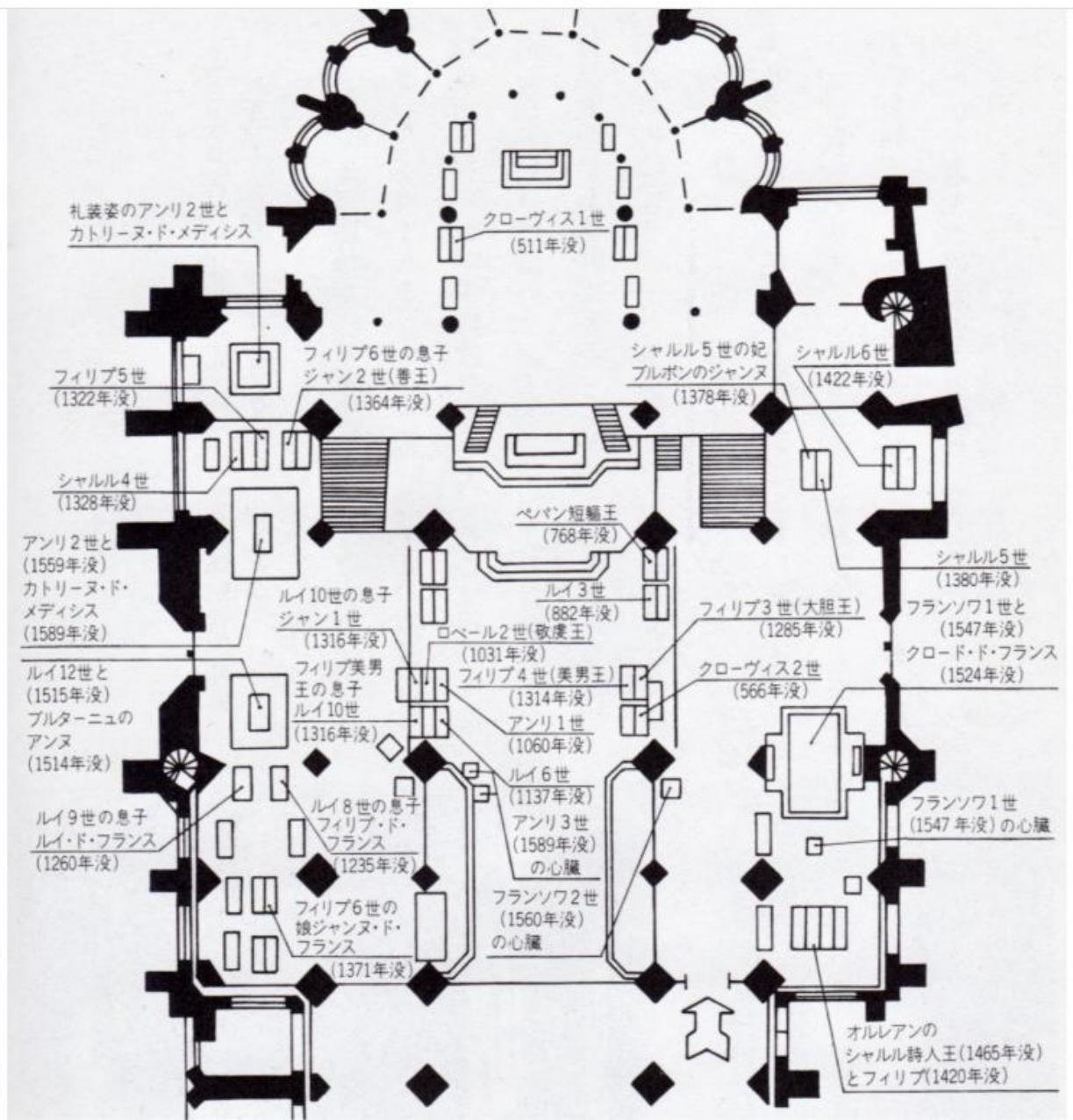






アンリ2世とカトリーヌ・ド・メディシスの墓

サン・ドニ大聖堂内の フランス王家の 石棺配置図





アンリ2世とカトリーヌ・ド・メディシス

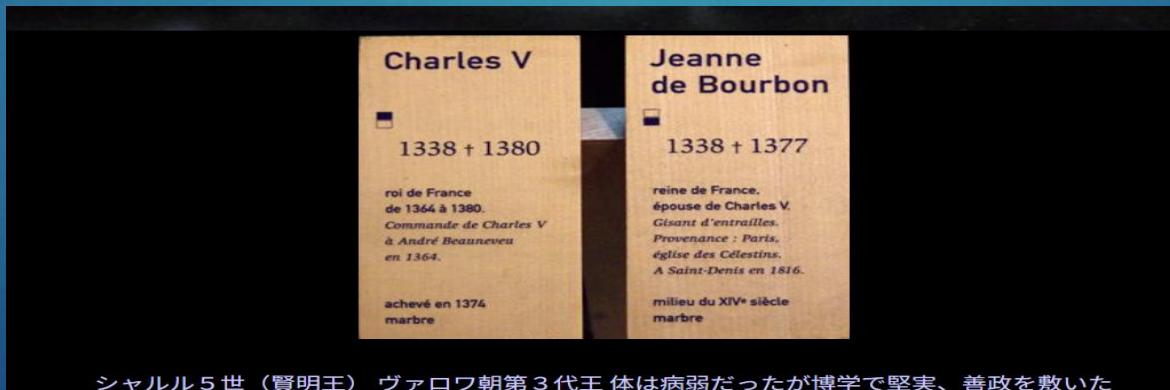


ルイ16世とマリー・アントワネットの像







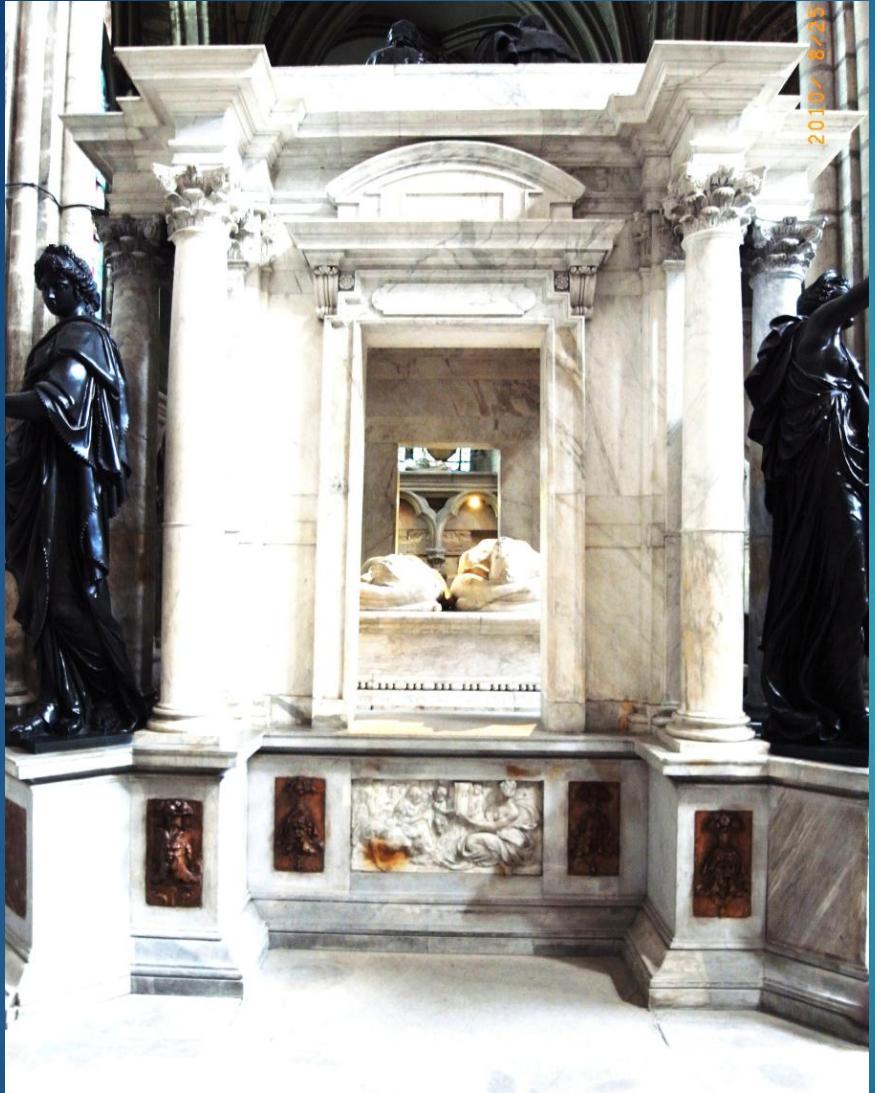






フランソワ1世とクロード・ド・フランスの墓





香油を分けてほしいと頼んだが、断られた



聖堂地下室にあるフルボン家の墓

・ブルボン朝の国王たち

アンリ4世 1593年にカトリックに改宗し、1598年にナントの王令を発して新教徒の信仰を認め、コグノ一戦争を終結させてた。その後、産業の保護、カナダへの進出など重商主義政策を行い、フランスの主権国家体制（絶対王政／絶対主義）の基盤を築いた。

・ルイ13世 宰相リシュリューが活躍、ヨーロッパのカトリックの中心勢力であったが、三十年戦争ではハプスブルク家の対立關係からドイツのプロテスタント諸侯を支援した。

・ルイ14世 前半では宰相マザランが出て、1648年から始まったフロンティの乱の貴族の反乱を、1653年までに抑えることに成功した。17世紀末から18世紀初頭のルイ14世の親政時代はフランス絶対王政の全盛期を出現させた。それを支えたのは財務長官コルベールの重商主義政策であり、産業の保護、インドやアメリカ大陸への侵出などが進められた。またカトリック体制を強化するために1685年にはナントの王令を廃止したが、その結果、新教徒が国外に脱出し、産業の发展には阻害要因となった。この間、一貫してオーストリア・ハプスブルク家とヨーロッパの主権を争い、スペイン継承戦争など、4度にわたる侵略戦争を開戦した。またヴェルサイユ宮殿が造営され、宮中を中心に豪華なバロック藝術が開花した。 → フランス

・ルイ15世 18世紀、先代に続いてヨーロッパの主権国家間の争いに加わり、オーストリア継承戦争、七年戦争を戦い、その間、イギリスとのアメリカ大陸、インドでの激しい英仏植民地戦争を開戦した。先代からのヨーロッパでの戦争、イギリスとの植民地戦争は国家財政に大きな負担となり、絶対王政が揺らいでいく。宮中ではバロック様式に代わりロココ様式が流行したが、思想界では啓蒙思想家が活躍を始め、次のフランス革命を準備していく。

ブルボン朝の断絶とその後

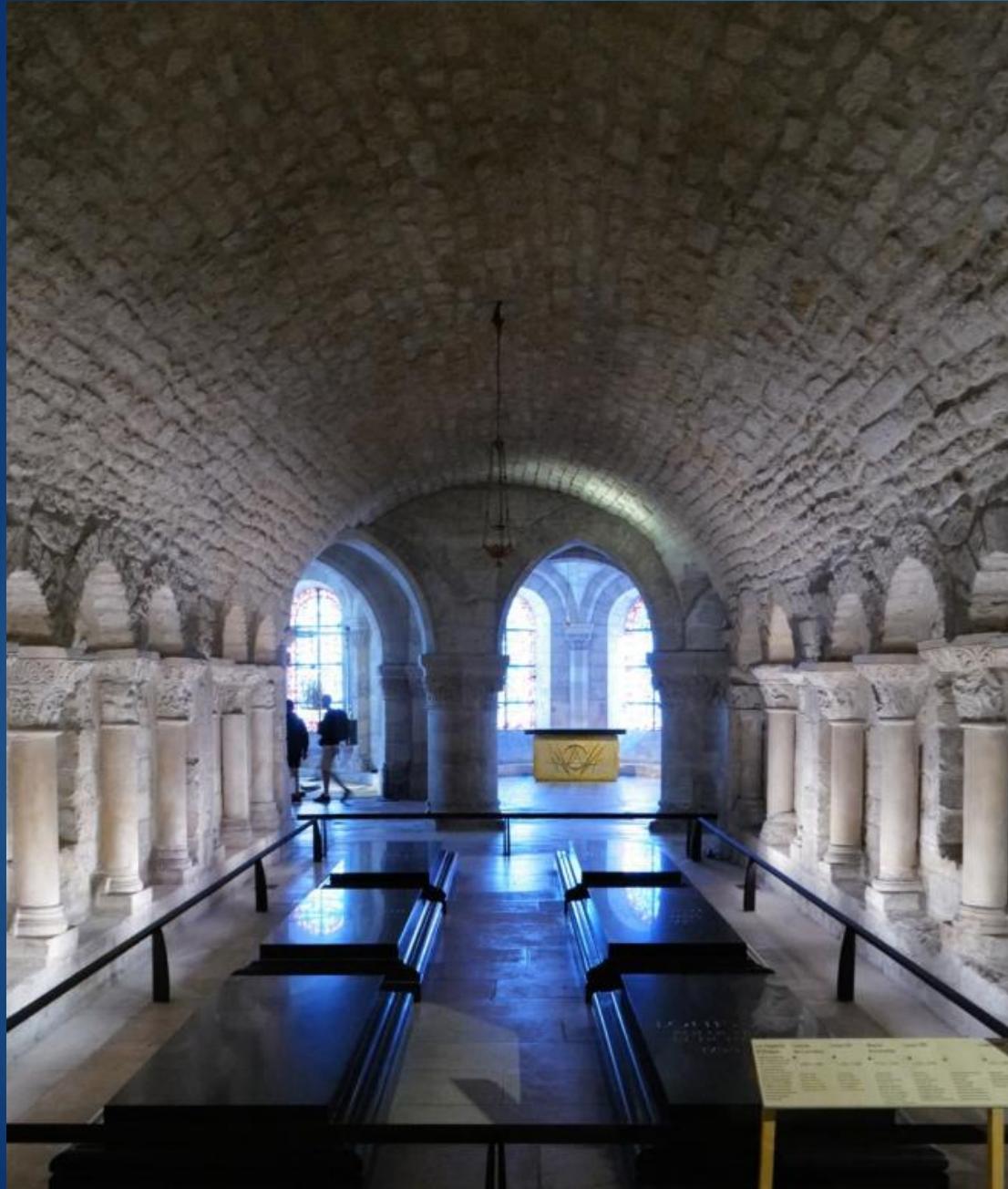
18世紀の後半、ルイ16世の時代には絶対王政の矛盾が急速に深刻化し、1789年にフランス革命が起き、1792年には王政も廃止され、ルイ16世が処刑される。ナポレオン没落後、1814年に復古王政となり、ルイ18世が即位、一時ナポレオンの臣下となるが、1815年にブルボン朝に復帰、次のシャルル10世が1830年の七月革命によって倒され、ブルボン朝は終わりを告げる。なお、次の七月王政のルイニフィリップは、ブルボン家の市家のオーレアン家の出身であった。また、スペインでは、ルイ14世の子のフェリペ5世がスペイン繼承戦争の時にスペイン王となってスペイン＝ブルボン朝が始まり、一時中断がありながら、現在までスペイン王室として存続している。



考古学的納骨室：聖ドニ



ブルボン家の墓所



6つの棺のうち、
真ん中の左がアントワネット、
右がルイ16世の棺と記されています。

Marie-Antoinette	Louis XVI
 1755 † 1793	 1754 † 1793
reine de France de 1774 à 1791, puis reine des Français de 1791 à 1792, épouse de Louis XVI. <i>Inhumée à Paris, au cimetière de la Madeleine, où Louis XVIII fit édifier la chapelle expiatoire.</i> A Saint-Denis, le 21 janvier 1815.	roi de France de 1774 à 1793, puis roi des Français de 1791 à 1792. <i>Inhumé à Paris, au cimetière de la Madeleine, où Louis XVIII fit édifier la chapelle expiatoire.</i> A Saint-Denis, le 21 janvier 1815.

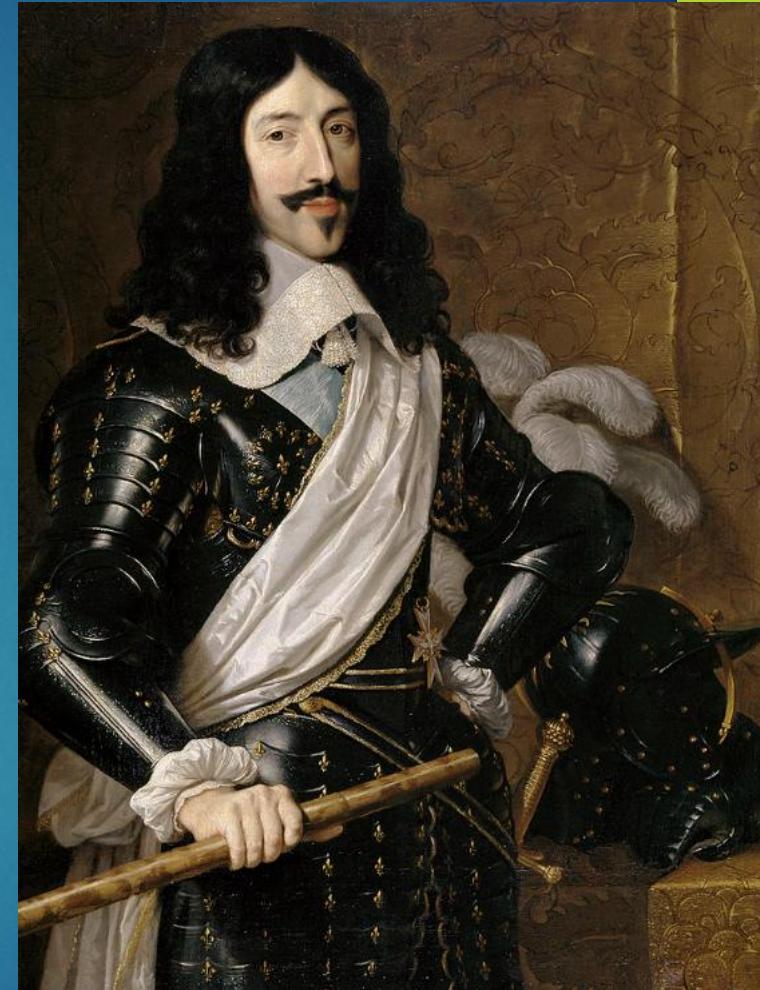
フルボン朝

ヴァロワ朝断絶後、フルボン家当主であったバラ王アンリがアンリ4世として国王に即位したことによりフルボン朝が成立した。「良王」と称されるアンリ4世は、ナントの勅令による国家の統合と内紛で疲弊した経済の再建を目指したが、宗教紛争の影響により在位21年目の1610年に暗殺(フランス語版)された。



アンリ4世

1610年にレイ13世は8歳で即位し33年間統治した。彼は幼かったものの、王母マリー・ド・メディシスと摂政となつたリシュリューの政策によって、フランスの絶対主義体制が整えられていった。またドイツで起こつた三十年戦争を表裏一体となって、支援介入し、国際的地位を確立していった。ただしフランス国王を神聖ローマ皇帝に戴冠するという野望は挫折した。



レイ13世

アンリ4世の孫が、「太陽王」として有名な絶対君主ルイ14世である。彼は4歳で即位し72年間統治した。ルイ14世は摂政であったマザランの死後、親政を開始した。このルイ14世の時代にフランスの絶対王政が確立し、フランス文化(ヴェルサイユ文化)と呼ばれる文化も発展した。

ルイ14世はネーデルラント継承戦争やオランダ侵略戦争によって領土を拡大し、国際社会におけるフランスの地位を向上させた。その反面、相次ぐ戦争などによって軍事費が膨張し、さらにナントの勅令の廃止(フォンテヌブローの勅令)のためにフランス資本が海外流出するなど、フランス経済の混乱を招き、財政再建を課税で賄った。



ルイ14世

レイ14世の死後、その後を継いだ曾孫であるレイ15世は、5歳で即位し58年間統治した。彼も、オーストリア継承戦争をはじめとする对外戦争にたびたび出兵して膨大な軍事費を課税で賄った。こうしてフランス革命の遠因を作ることとなった。



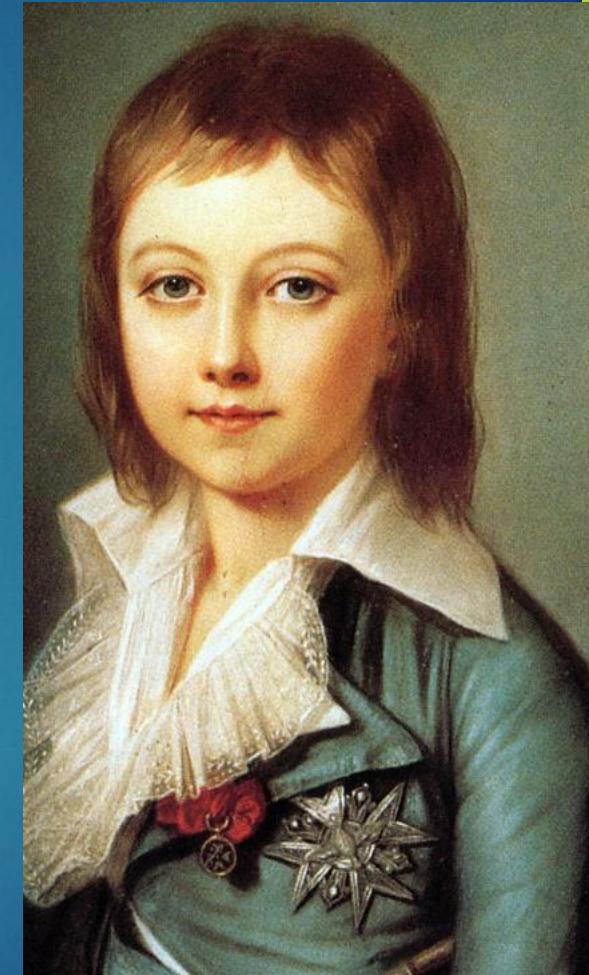
レイ15世

ルイ15世の孫ルイ16世は1774年に19歳で即位した。彼の時代にフランスの財政は破綻に瀕した。生活と建物の維持費として、年額2500万リーピルが王室費として国庫から支給されていたという^[1]。ルイ16世はこれまで特権階級であった貴族や聖職者にも課税しようと1789年に全国三部会を召集したが紛糾し、それがフランス革命勃発の直接の原因となった。フランス革命では、革命政府内部でも権力闘争が起こり、さらにフランスの縁戚であったオーストリアなどの干渉もあってフランス国内は混乱が続いたが、即位して19年目の1792年に遂に王権が停止され(8月10日事件)、国民公会によって王政が廃止された。1793年にはルイ16世が処刑(英語版)された。



ルイ16世

レイ17世(仏: Louis XVII, 1785年3月21日 - 1795年6月8日)は、フランス国王レイ16世と王妃マリー・アントワネットの次男。兄の死により王太子(ドーファン)となった(1791年9月からはフランス・ロワイヤル(フランス語版)。8月10日事変以後、国王一家と共にタンブル塔に幽閉されていたが、父レイ16世の処刑(英語版)により、王党派は名目上のフランス国王(在位: 1793年1月21日 - 1795年6月8日)に即位したものと看做した。名目上のナバラ国王でもあった(ナバラ国王としてはレイス6世)。しかし解放されることなく2年後に病死した



レイ17世(レイ・シャルル)

ルイ16世の死後、その息子である幼少のルイ17世は革命政
府から苛烈な扱いを受け、1795年に病死した（生存説もあ
る）。これ以降、ルイ16世の弟プロヴァンス伯爵（後のルイ18
世）が亡命先でフランス国王を自称した。



ルイ18世

ルイ18世の死後、後を継いだ弟シャルル10世は66歳で即位した。彼は絶対王政の復活を目指して議会の解散を强行しようとしたため、国民が反発して在位6年目の1830年に七月革命が起こる。この革命によってシャルル10世はイギリスに亡命した

シャルル10世の亡命後、ブルボン家支流オルレアン家のルイ・フィリップが国王となる。この王朝はオルレアン朝と呼ばれ、ブルボン朝とは区別される。



シャルル10世



2010/8/25

サン・ドニ市庁舎

パリ市内観光



パレ・ロワイヤル

(仏: Palais-Royal) は、パリの1区にある歴史的建造物。
現在は文化省や国務院、憲法評議会などが入る建物となっている。

パレ・ロワイアル



ダニエル・ビュラン作の白黒のストライプ模様の60本の円柱





パレロワイヤル 中庭 円柱で一休み

ルーヴル宮殿の北隣、サントノーレ通り204番地に位置する。もともとはルイ13世の宰相リシュリューの城館パレ・カルティナル (Palais-Cardinal) だったが、その死後に主君へ寄贈された。ルイ13世の死後、1643年に当時5歳のルイ14世がルーヴル宮殿から移り住んだことで、パレ・ロワイヤル（王宮）と呼ばれるようになった。



中庭の広場



パレロワイヤル中庭

パレロワイアル 柱廊



柱廊は米映画『シャレード』で最後の銃撃場面に使われた。

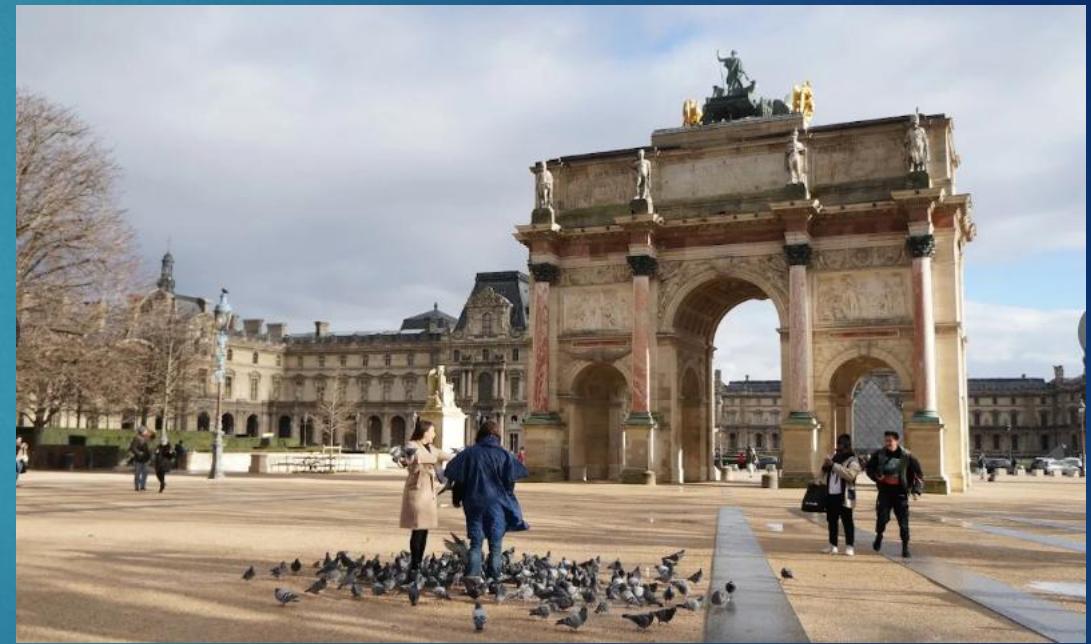


ルーブル美術館



ルーブル美術館とカルーゼル凱旋門

カルーゼル凱旋門（フランス語: arc de triomphe du Carrousel）は、パリ1区にある凱旋門であり、かつてチュイルリー宮殿であった公園内のカルーゼル広場に位置する。1806年から1808年にかけて、前年のナポレオンの勝利を祝するために建設された。より有名なエトワール凱旋門も同年に設計されたが、カルーゼルの大きさはエトワールは約二分の一である。



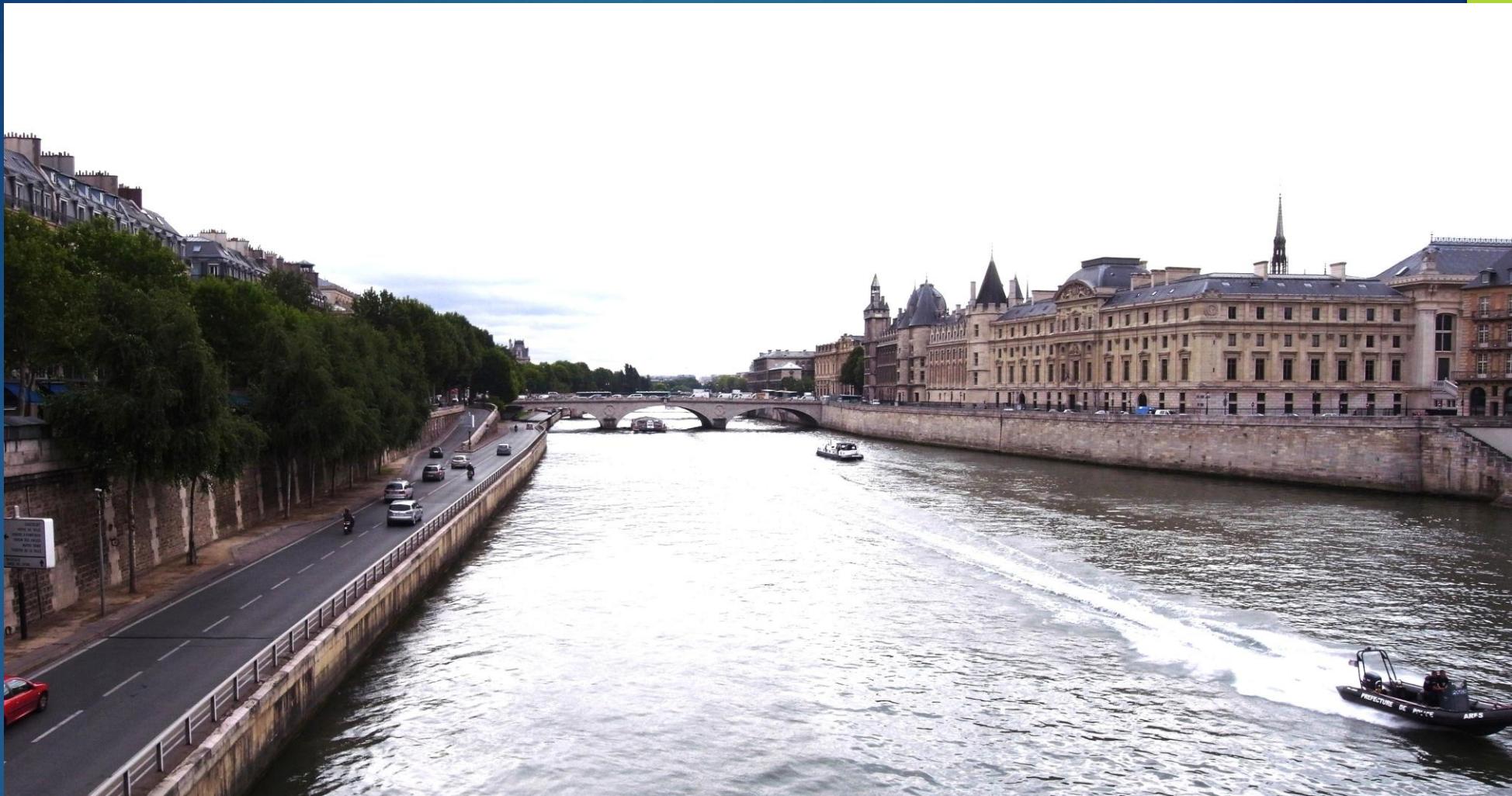
カルーゼル凱旋門



セーヌ川の畔 カフェで一休み



2010/ 8/ 28





コンシェルジュリー



コンシェルジュリー（Conciergerie）は、フランスのパリ1区、
シテ島西側にあるかつての牢獄。現在はパリのパレ・ド・ジュス
ティス（司法宮）の一部で、観光名所となっている。





2010/ 8/26

Pont Neuf からコンシェルジュリーを臨む

コンシェルジュリー (Conciergerie) は、フランスのパリ1区、シテ島西側にあるかつての牢獄。



コンシェルジュリーとノートルダム寺院



2010/ 8/26

独房が再現されている



2010/ 8/26



マリー・アントワネットが最後に過ごした独房が蠍人形と共に再現されています。



後ろには常に見張りが



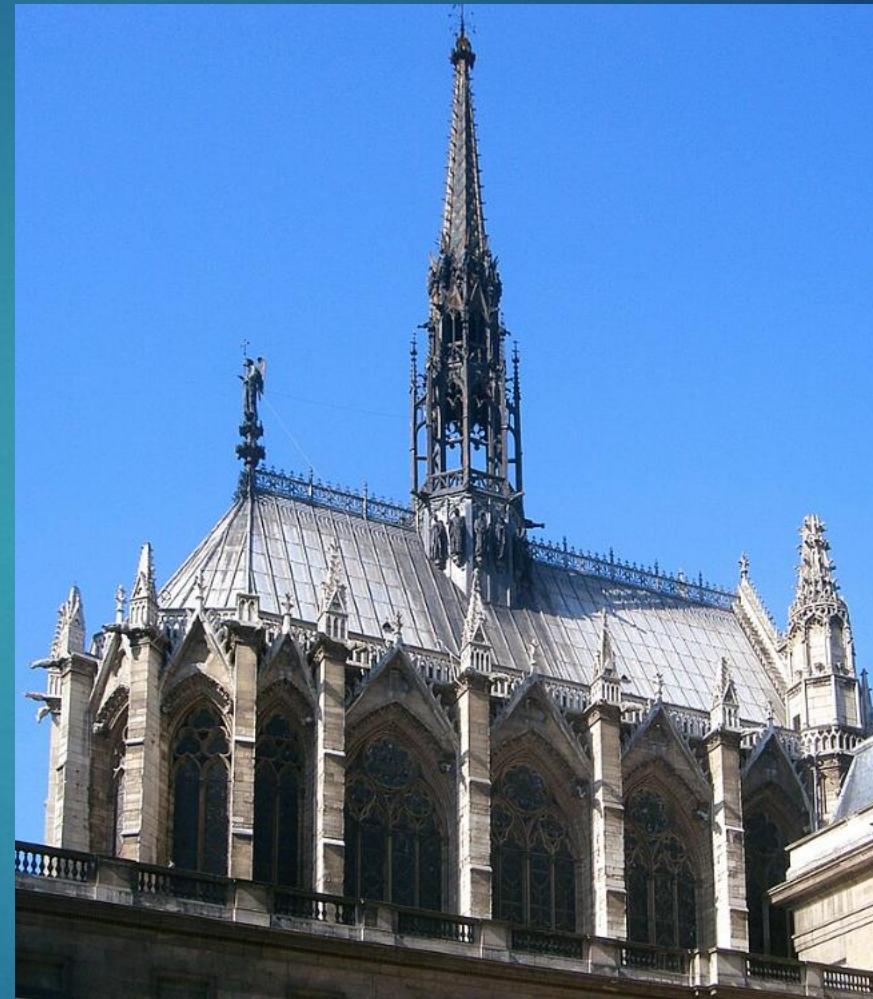
晩年のマリアントアネット



衛兵の間 コンシェルジュリー



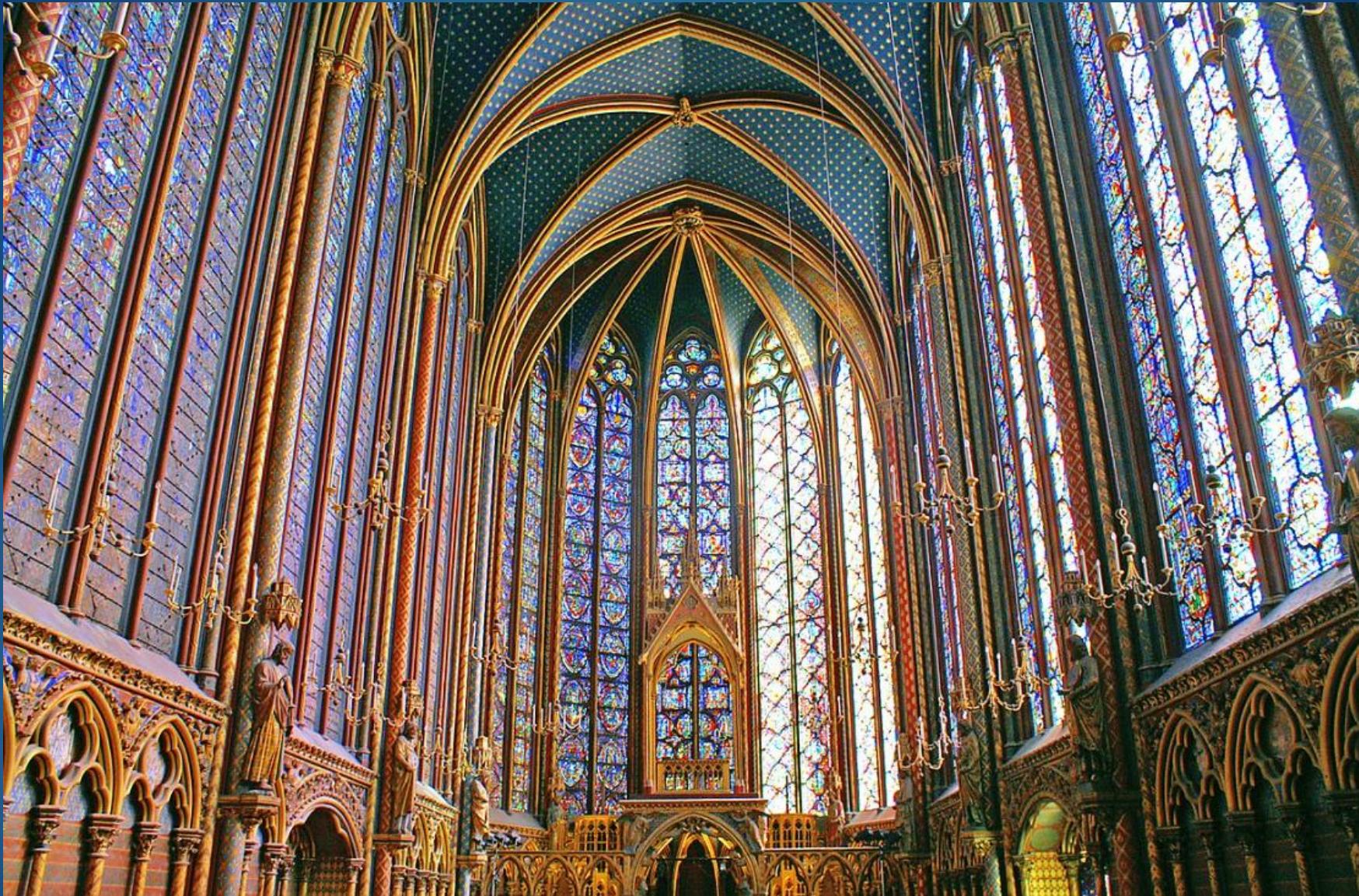
フランス革命



サント・シャペル（ステンドグラスで有名）



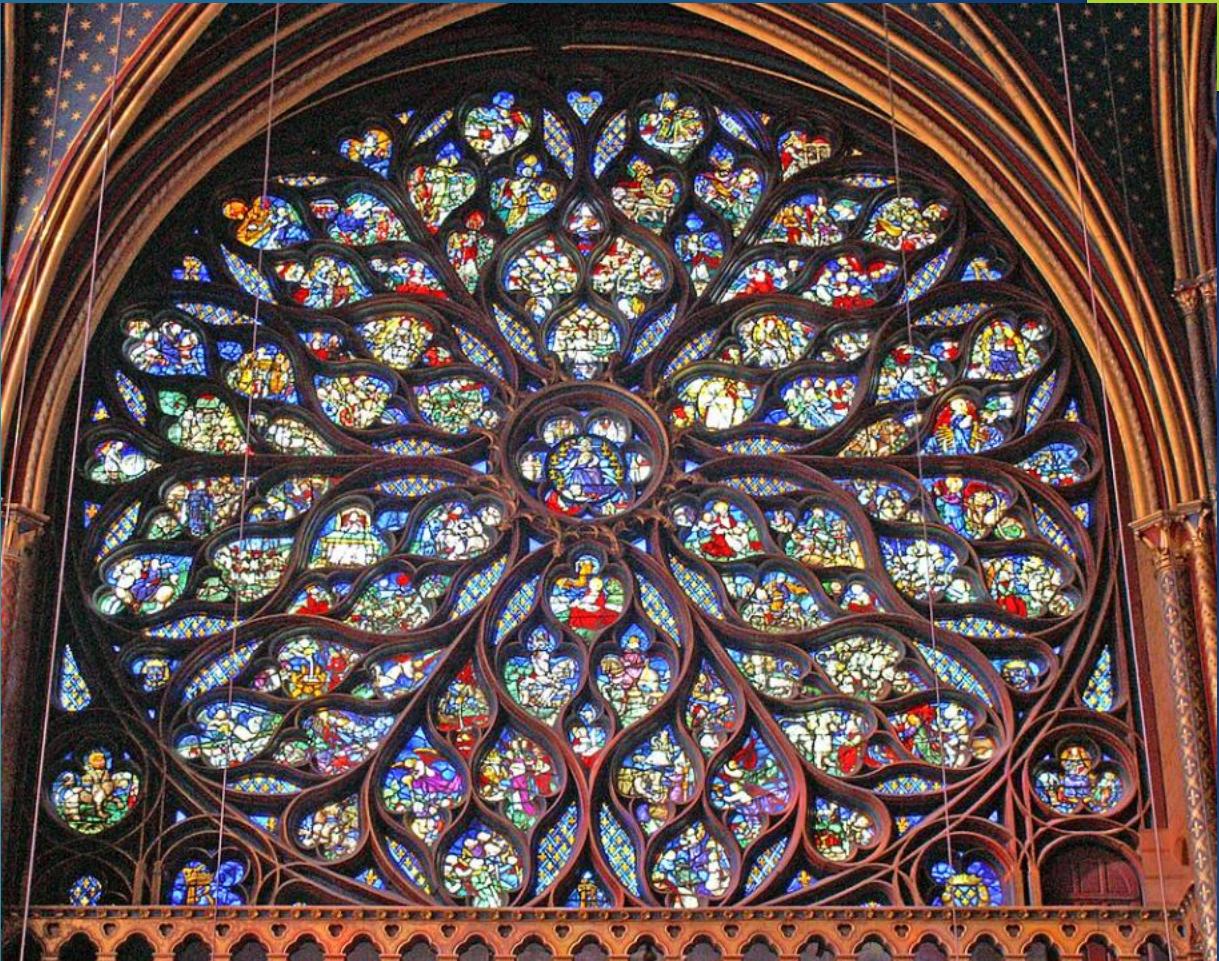
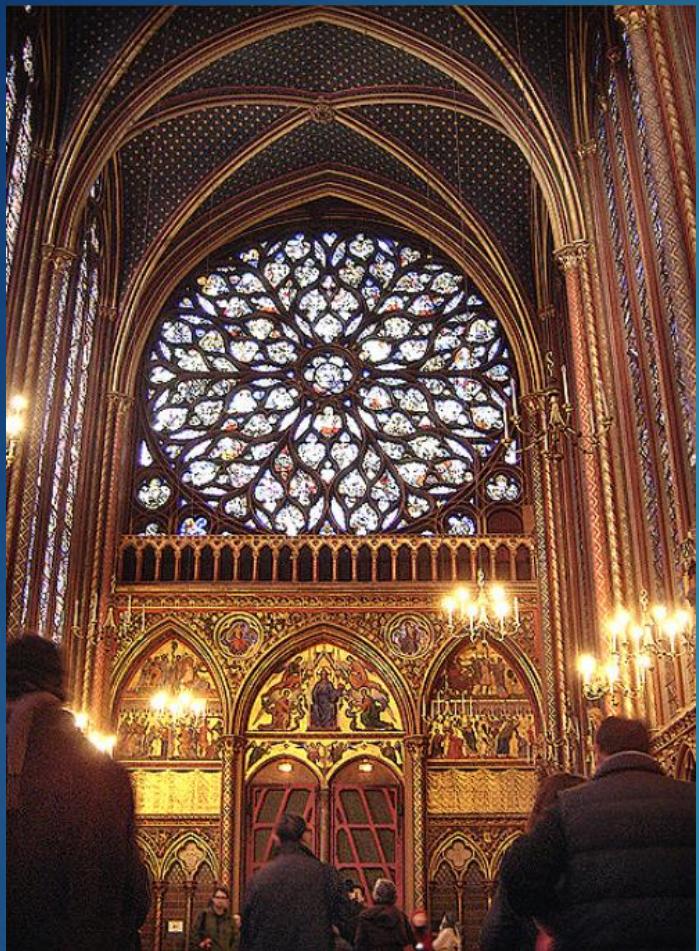
サント・シャペル



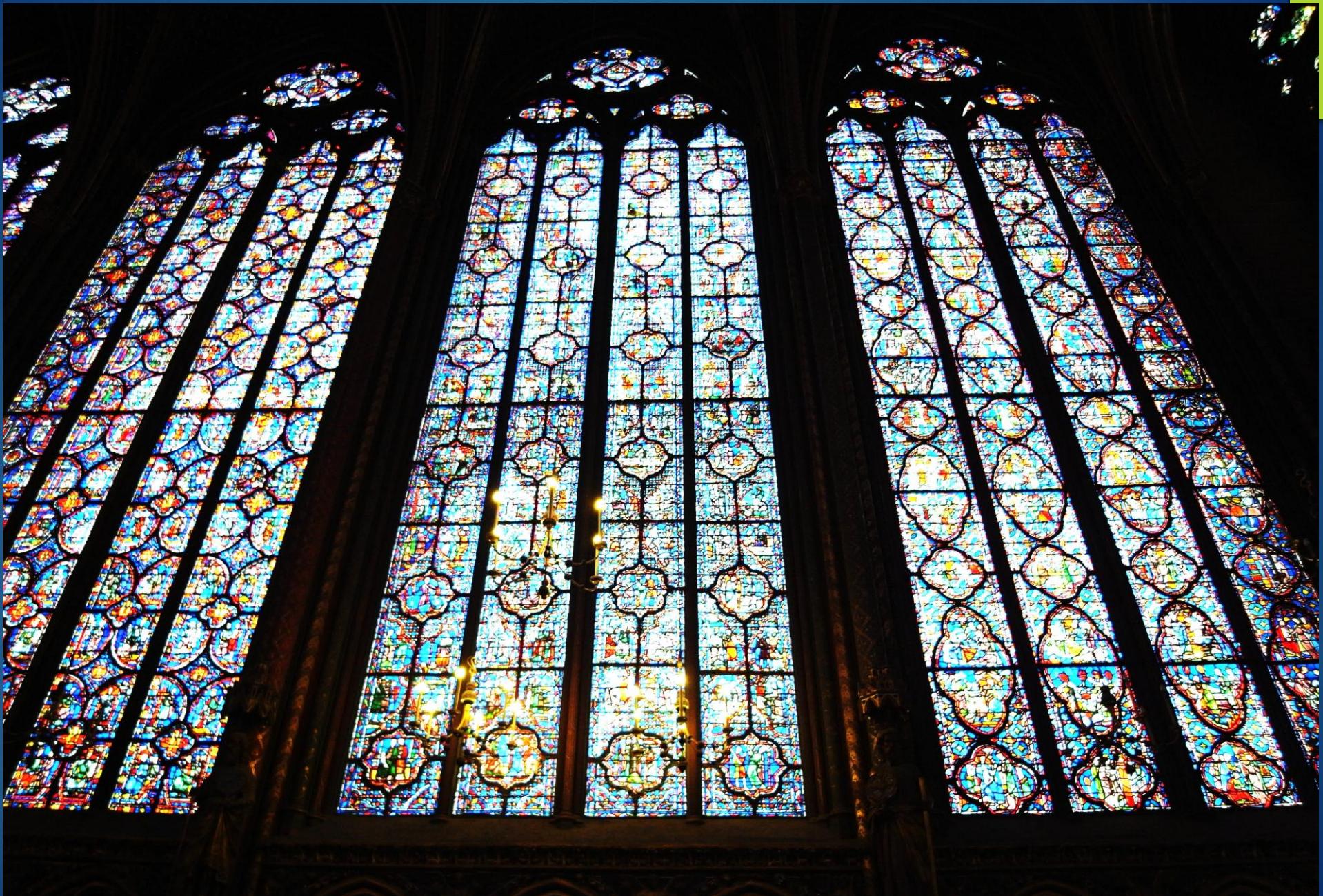
サント・シャペル (Sainte chapelle) とは「聖なる礼拝堂」という意味



バラ窓と呼ばれる大きな丸いステンドグラス



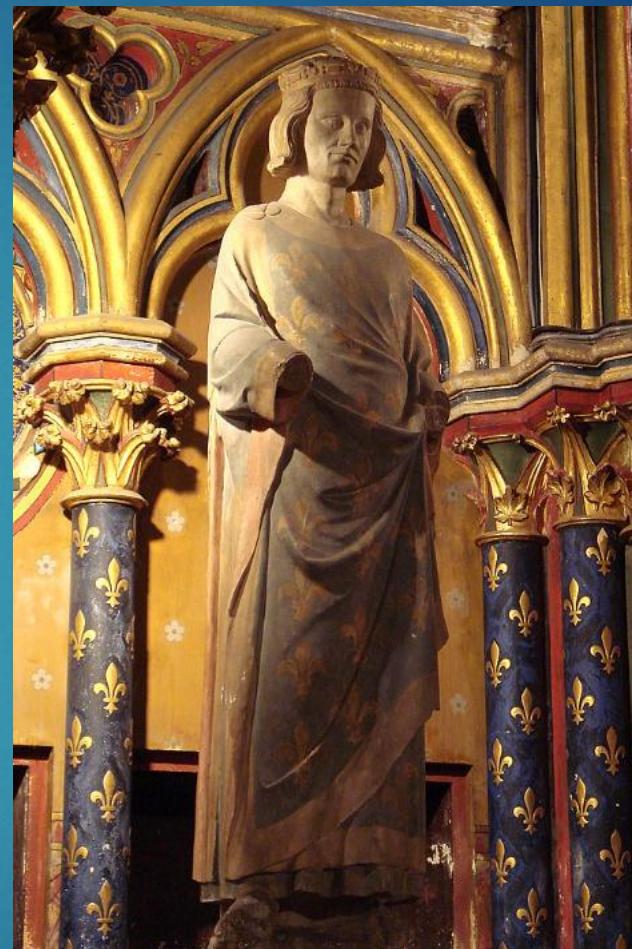
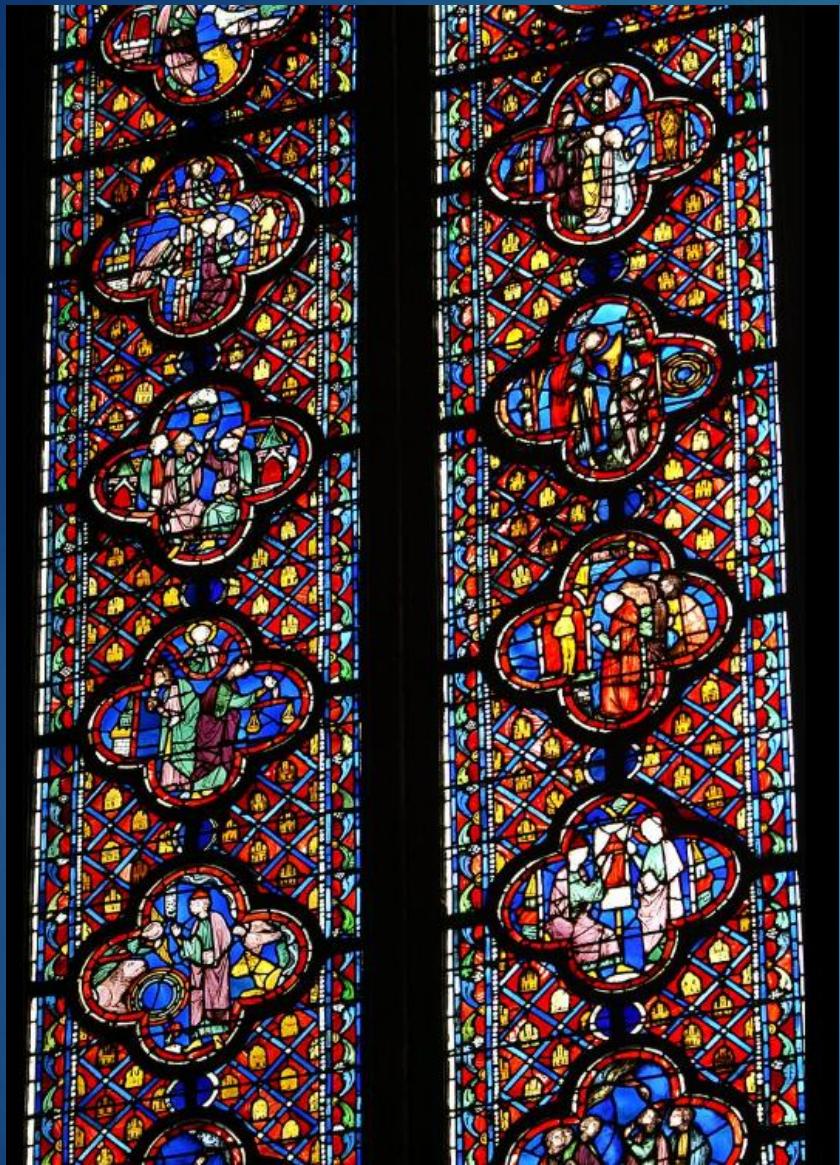
美しく莊厳なバラ窓





2018.8.26





サント・チャペル建造の後援者となったルイ9世の像



アレクサンドル3世橋とグランパレ



アレクサンドル3世橋とエッフェル塔



ドーム教会



アレクサンドル3世橋を渡りアンパリッドへ



ナポレオンの眠るアンヴァリッドとグラン・パレを結ぶアレクサンドル3世橋は、32あるパリの橋の中で一番豪華な橋



アレクサンドル3世橋



Александра 3. Париж.

アレクサンドル3世橋とアンバリッド







ナポレオン像



アンヴァリッドの石畳の中庭





ナポレオンの棺



トゥール・モンパルナス（モンパルナス・タワー、フランス語：Tour Montparnasse, Tour Maine-Montparnasse, 英語：Maine-Montparnasse Tower）はフランスの首都パリ南部のモンパルナス地区（場所は15区）にある超高層ビル。高さ210m、59階建てで、主な用途はオフィス。1969年から1972年にかけて旧モンパルナス駅の跡地に建設されたが、激しい景観論争を巻き起こし、以後パリ市内にこれを超える高層建築は建てられていない。



パリの夜景

写真集2

END